



発行所 十勝毎日新聞社 千080 帯広市東1条南8丁目 電話=編集㊟2121、広告㊟2323、総務・販売㊟2222 ㊟十勝毎日新聞社 1987

# 十勝と宇宙開発

## 講演会から

①

十勝毎日新聞社、読売新聞社、十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会が主催し二十七日、帯広市勤労者福祉センターで開催した講演会「十勝と宇宙開発」は、講師に医学博士で元内閣宇宙開発委員会専門委員、松田源彦氏、宇宙開発研究者、若居直氏、コーディネーターに前大樹町長、野口武雄氏を迎え、会場々々のみで活発な議論を展開、南十勝での航空宇宙産業基地実現への地域の機運を大きく盛り上げた。本社年間キャンペーン「目指せ宇宙基地」第二部として、松田氏「宇宙と人間生活」、若居氏「未来の月は繁栄する」の両講演とフロアデモンストレーションを再録する。

### 人類の三目標

地 太陽熱発電所の建設、惑星の探査旅行の時代に入る。このからの宇宙は月面基地の第一歩の、前進基地、と

宇宙開発研究者

若居 直氏

なる宇宙ステーションは一九九五年に打ち上げられる計画になっており、もう十年もたないうちに、類は宇宙空間を、居住の地、とするところまで来ている。私も皆さんと同じく、科学者ではなく、宇宙マニアの一人。天を眺めると星があり、その星へ行くと見たいと長い間希望を持ち続けている。夢が絵空事ではなく、現実のものとなっている。現代、私は将来現実のものとなる宇宙開発について研究を行っており、これから宇宙に対する人類の、目標を紹介する。

一九六九年七月二十日に入類は初めて月に立ち、一九七



る太陽熱利用については、連日、一番関心を寄せている。もう一つの宇宙開発は惑星の探査旅行だ。米国は無人の探査ロケット、バイキングを足掛かりとするのが一九九五年に米国が作る宇宙ステーションだ。地上から四、五百キロ離れた場所を回り、その地点に、足場、を作ることによって、いよいよ月面基地、地と太陽熱発電所がまず建設時代に入ります。打ち上げ、また、月の土砂は二、七千トン、酸素も作り出す。金星には大気圏があるが、ほとんどが炭酸ガス。表面は九、一〇〇℃、日本も実験室を持つ。場所を確保する。このことが想像されている。月と地球の間に宇宙ステーションを置き、スペースシャトルを使って人や貨物を運搬、一度に九十トンを運べるスペースプレートの開発に取り組んでいる。スペースプレートの場合、宇宙空間を利用することから、シミュレーション、東京間、がわずか二時間という想定だ。連日、四百二十五トンの大量輸送が可能。二段式スペースシャトルを考えている。これらの宇宙船が登場すれば、宇宙への観光旅行も現実となる。それならば、大樹町に作る宇宙基地は月の一便は観光船が出るくらい規模は小さいか、だろうか。世界の宇宙船は大樹を、玄関、とする

## 大樹を世界の玄関に

### 10年もたてた宇宙は、居住の地、

わるエネルギーは原子力と太陽熱だと言われている。地球、大気圏によつて太陽光が低く押さえられているが、宇宙空間には知り知れないエネルギーをもつ太陽光が存在している。この宇宙空間にある

このことが想像されている。月と地球の間に宇宙ステーションを置き、スペースシャトルを使って人や貨物を運搬、一度に九十トンを運べるスペースプレートの開発に取り組んでいる。スペースプレートの場合、宇宙空間を利用することから、シミュレーション、東京間、がわずか二時間という想定だ。連日、四百二十五トンの大量輸送が可能。二段式スペースシャトルを考えている。これらの宇宙船が登場すれば、宇宙への観光旅行も現実となる。それならば、大樹町に作る宇宙基地は月の一便は観光船が出るくらい規模は小さいか、だろうか。世界の宇宙船は大樹を、玄関、とする

年間キャンペーン「目指せ宇宙基地」第二弾